

首都圏増田会だより

40
2025.7

蔵と書

～蔵まち巡り × 書道展～

中七日町通りの蔵や店舗を会場に、増田にゆかりのある書道家 矢野童観氏、堀田玲子氏の作品を展示しました。

期間中には約2000人の方々が来場し、増田の町並みの散策と共に、優雅に調和した「蔵」と「書」を味わいました。

【令和7年5月31日～6月8日開催】



第40回首都圏増田会総会
オーラム 2025年11月16日(日)

首都圏増田会設立40周年記念 お祝いのことば

横手市長 高橋 大



首都圏増田会が、設立40周年を迎えられたことに対し、心からお祝いを申し上げます。

岩田会長をはじめ会員の皆様には、ふるさと増田の、そして横手市の発展のため、日頃よりご指導、ご協力をいただいておりますことに心から感謝を申し上げます。

今年も5月初めには、真人山から金峰山にかけての禁を白いりんごの花が埋め尽くしました。秋の総会の時期には、特産品である美味しいりんごを皆様にお届けできることと思います。ぜひ、ふるさと増田の秋の味覚をご堪能いただければ幸いです。

りんごをはじめとする果樹、稲作・園芸など地域農業の発展を支えてきた秋田県立増田高等学校が、今年の4月に創立100周年を迎えました。一世紀という大きな節目を迎えることができましたのも、同窓生と増田地域にゆかりのある皆様が共に支えてくださった賜物であります。今後もふるさとの学校として、あたたかく見守ってくださいますようお願いいたします。

さて、本市は本年10月1日で市制施行20周年を迎えます。「増田蔵の日」をはじめとするイベントも「市制施行20周年記念」と銘打ち、全市一体となって盛り立てるとともに、この節目を横手の新たな魅力発信の機会と捉え、今後も魅力あるまちづくりのために邁進していく所存です。

ふるさと増田、横手を想い、深いつながりを持っていただいているふるさと会の皆様は、私たちとは異なる視点と発想で横手の魅力や課題を発見してくださる貴重な存在であります。旧増田町での20年、そして新横手市となってからの20年、この40年に渡りふるさと増田を気にかけて、支えていただいた首都圏増田会の皆様には感謝の言葉しかございません。どうぞ、これからもふるさとを愛し、ふるさとの更なる発展、魅力創出のため、お力添えくださいますようお願い申し上げます。

結びに、首都圏増田会の今後ますますのご発展、並びに会員の皆様のご健勝とご多幸を祈念申し上げ、お祝いのことばといたします。

首都圏増田会発足40周年 おめでとうございます

首都圏増田会 会長 岩田 幸子(本町)



歴代の会長はじめ先輩役員の方々、そしてとりもなおさず毎年総会に出席してくださっている会員の皆様のおかげで、こうして40周年を迎えることができた事を大変うれしく、そして感謝の思いで一杯でございます。そして、いつも陰に日向に支えてくださっている増田地域局の局長はじめ地域課の皆様の御協力の賜物でございます。改めて感謝申し上げます。いつもありがとうございます。

さて、昨年9月14日、第100回記念増田の花火大会に、友人と共に役員の皆様と一緒にに行ってきました。県内随一の歴史と伝統を誇っている増田の花火は、それはそれは素晴らしく、今でもあの花火(二尺玉スターマイン)のドーンという音と美しさと感動のあの光景は忘れられません。一生の思い出になりました。

増田を離れて58年。もうすぐ私も喜寿を迎える齢になりました。帰郷する毎に毎回新しい発見ができて「横手愛」「増田愛」がどんどん深くなります。そして横手ふるさと会8市町村の皆様と交流ができて訪問ツアーに参加する事で、今まで全く知らなかった他の地域の事を知ることができ、とても勉強になり、いつも楽しく参加させて頂いております。

今回の総会(11月16日(日))では、「増田盆おどり保存会」の方達が40周年のお祝いの意義を込めて盆踊りを披露してくださると聞きました。今から楽しみにしております。(私たちも少し練習をして踊ってみたいと思います)

増田会の更なる発展を祈って私のあいさつとさせていただきます。総会で皆様とお会いできる事を楽しみにしております。



天下森スキー場「新ヒュッテ」オープン

12月28日（土）、横手市内唯一のスキー場である「天下森スキー場」に新しい「夏虫沢ヒュッテ」がオープンしました。大きな三角屋根が特徴的な新ヒュッテは従来の3倍以上の広さをほこり、約200人収容可能な食堂では名物の「三平そば」をはじめ、豊富なメニューを提供しています。子どもや家族連れの利用を中心に多くの方にご来場いただき、令和6年度シーズンの入場者数は過去最高となる27,055人を記録しました。

新ヒュッテの食堂は夏場も営業し、横手産そば粉100%使用の「三平そば」を提供していますので、帰省の際にはぜひ天下森まで足を延ばしてみたいはいかがでしょうか。



2年ぶり「^{げん とう}幻灯」開催

2月8日（土）9日（日）の2日間に渡り、雪の狙半内地区をゆらめく灯りが包む「元祖さるはんない幻灯」が開催されました。地区を貫く約10キロの県道・市道沿いの雪壁などに作られた雪洞に約2500本のろうそくが灯され、幻想的な光景となりました。雪不足での中止を挟み2年ぶりの開催となりましたが、地区内のみなさまの協力もあり、あたたかな催しとなりました。

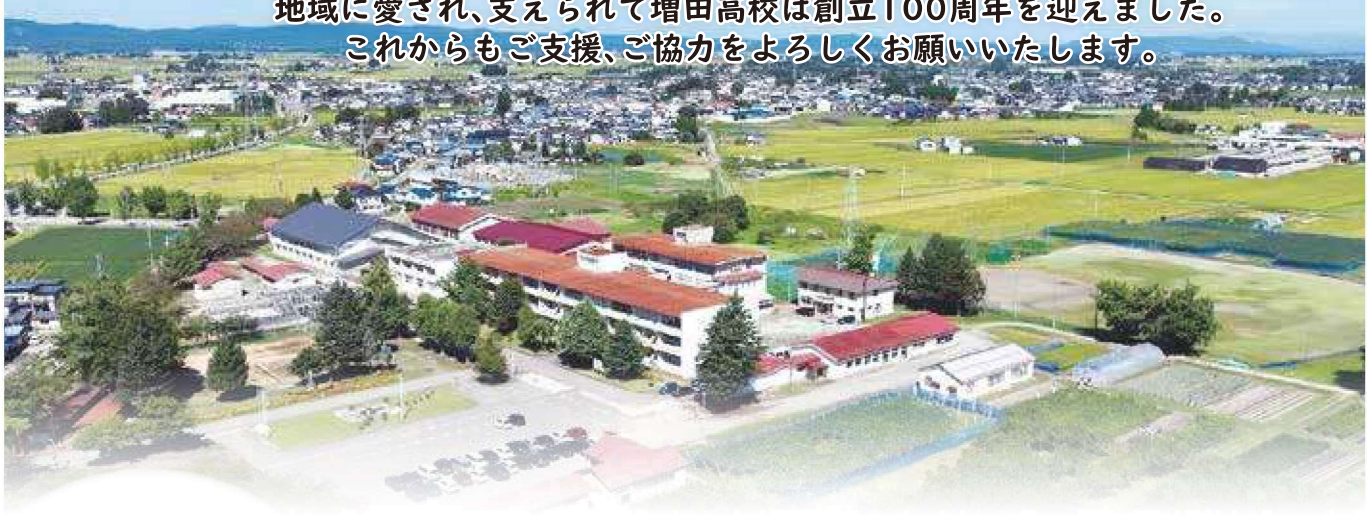




100年の歴史を繋ぎ 今を羽ばたけ そして新たな未来へ

祝 秋田県立増田高等学校創立100周年

地域に愛され、支えられて増田高校は創立100周年を迎えました。
これからもご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。



創立100周年記念行事（開催済み行事を含む）

4月28日(月)	自衛隊音楽隊記念演奏
5月28日(水)	硬式野球招待試合【招待校:金足農業高校】
6月12日(木)	バレーボール招待試合【招待校:宮城県東陵高校】
10月24日(金)	漫画家 矢口高雄先生(増田高校OB) 大型パネル作品設置除幕式
11月 1日(土)	創立100周年記念式典・記念講演 講演者:富田秋雄氏(増田高校OB 昭和44年卒) ホテル椿山荘東京元総支配人

増田町の出来事

～ 令和6年度に行われた行事を紹介 ～

「てんこ小豆」伝承活動

6月8日（土）伝統作物の「てんこ小豆」伝承活動がスタートし、地区住民をはじめ国際教養大学（秋田市）の学生の皆さんも加わっての種まき作業を行いました。この取り組みは、増田地区交流センターが秋田県で伝統的に赤飯用の豆として使用されている「てんこ小豆」を地域特産品に繋げることを目的に実施しました。増田小学校でも、増田高校の生徒の指導のもと児童の皆さんが栽培に取り組みました。秋には沢山の「てんこ小豆」を収穫することができ、関わってくださった皆さんとの試食会も実施しました。



豪雨…西成瀬で土砂崩れ、狙半内で一時避難

7月24日（水）から25日（木）にかけて、秋田県内は記録的大雨に見舞われました。横手市内では人的な被害こそありませんでしたが、各地で住宅や農業施設・農地等への浸水被害がありました。増田では西成瀬地区の安養寺と菅生を結ぶ市道（通称：川原毛道路）が土砂崩れで不通となったほか、狙半内地区では住居周辺で土砂崩れの恐れがあるなどし住民が一時避難する被害を受けました。

増田バンドフェス ～増田音楽祭～

9月8日（日）、亀田地区交流センター（旧亀田小）を会場に「増田音楽祭」が開催されました。平成26年から増田地域の4地区交流センターで持ち回りで開催してきた「増田バンドフェス」から数え11年目の今回は地区内外で活動する7組のバンドが競演しました。参加者は20代から70代と世代もジャンルも超えた演奏で熱い一日となりました。



第100回「増田の花火」

9月14日（土）、第100回「増田の花火」が開催されました。県内で最も歴史の長い花火大会であり、今回も豪華な大スターマインをはじめ、締めめの「二尺玉の打ち上げ」まで約5000発が打ち上げられ、多くの観客を湧かせました。増田の花火は月山神社の宵祭りの一環として始まり、大正13年の第1回開催からコロナ禍の中止を挟み、令和6年に100回目の節目を迎えました。10月6日（日）には記念祝賀式典が催され、花火師をはじめとする功労者に感謝状が贈呈されました。



過去からのメッセージ（増田高校同窓会関東支部白鳩会 会長 富田 秋雄）

「よう！何年ぶり、久しぶりだよ。」とにぎやかな声が飛び交う。どこのふるさと会でもおなじみの光景。誰だろう、顔と名前が一致しない、一瞬戸惑うこともある。それでも一生懸命話をしながら思い出そうとする。このような経験は誰でもあるだろう。しかし不思議なことに、どこかに当時の面影を見つけたその瞬間に時間が動く。物凄い勢いで過去にタイムスリップし、懐かしいアルバムの顔が蘇える。ここまでくれば安心、杯を酌み交わし、飲むほどに酔うほどに、気分はもう青春時代だ。また、会う人ごとに語り合えば語り合うほど、当時の思い出に新しい思い出が追加され、当時の思い出が新しく生まれ変わる。これが同じふるさとと思い出を共有している仲間との再会の醍醐味だ。

先日、うれしい誘いがあった。「首都圏増田会」に参加させていただいた。私は「なるせ」で生まれ、高校時代の半年は「なるせ」からバイク通学、あとの半年は増田町で過ごした。「なるせ」からでは11月以降3月までの半年間は雪に埋もれ、通学にも支障を来すので増田町に下宿していた。この町は物心ついた頃より憧れの地だった。時々、親に連れて行ってもらった「町の日」(当時親がそう呼んでいた)には、町の路肩にたくさんの店が並んで壮観であった。しんと雪舞う「町の日」に親に買ってもらった、ほっかほっかの大判焼は身も心も温まり美味しかった。今でも東京の下町でたまに大判焼を見かけるが、この町と親の顔を思い出し感慨深く懐かしいものがある。この憧れの地での下宿は、生まれて初めて親元を離れて過ごす経験をした。夜になると親、兄弟を思い出しては寂しくなり布団にもぐりこんだこともある。学校公認の下宿先は生徒の出入りが意外と厳しく、友達を誘うにも許可が必要だった。でもこの監視の目は簡単に覆すことが出来た。取り入れたのは週末の勉強会である。勉強会の内容は皆さんの想像にお任せする。同級生が入れ替わり、立ち替わり出入りし、合宿のようで楽しかった。とても大人へのいい心の準備ができた。このように将来への不安と夢が入り混じる複雑な気持ちで、仲間と彷徨い歩いた増田町。私にとって特別な思い出の聖地である。忘れられない青春の門の入り口である。

私は人生の訓として意識して行動していることがある。それは人間関係である。幸せて豊かな人生に、私は良い人間関係が欠かせないと思っている。コロナ感染症の教訓を忘れてはいないだろうか。人が人を疑い、距離を取りながら人に会うことさえためらう無情な生活はまだ記憶に新しい。何も気にせず会いたいときに会える元の日常の大切さを初めて知った。元の日常が戻ってきたら会える時に会おうと心に誓った人も少なくないだろう。

今がその日常であるが、その教訓は決して忘れてはならない。今まで大事に築いてきた人間関係も放っておくと失うこともある。私は、会社組織を離れるときに人生の虚しさをふと感じた。今まで培った人間関係を失う可能性もあるからである。失って初めて、豊かな人生と幸せとはこの良い人間関係にあるということに気が付いた。それ以降、良い人間関係を維持し、継続するためにふるさと会、総会、OB会など無理しなくても積極的に参加し、会える時に会うようにしている。そういう意味で首都圏増田会への参加は楽しく、うれしかった。増田会は仲間に会えるいい機会と人を幸せにする仕組みである。ところが昨今はSNSの発達に伴いコミュニケーション手段も豊富で、人間関係を簡単にメールで済ませることが出来る便利な時代だ。でもこの便利な時代にも落とし穴がある。SNSで心は本当に満たされるだろうか。人という字は人と人が支え合っていてきている。やはり人間は直接会って、顔の表情を見ながら会話を楽しみ、喜んだり、笑ったり、時には悲しむこともあるが、「今日は会えてよかった」「楽しかった」「また会おうね」と心が繋がっていくものだと思う。

歴史は繰り返すという。会いたいときに自由に会えなかったコロナ禍の日常の苦しみを経験し、会いたいときにいつでも会える元の日常の大切さを学んだ。だからこれからは「いつか会おう」から「会える時に会おう」と心に決めた。しかし、総会等の参加者の減少傾向に、大事な教訓を忘れるには早すぎる！と一喝する。そんな遠くない過去からのメッセージが聞こえてきそうだ。

令和6年11月17日（日）「第39回首都圏増田会総会・交流会」が上野オーラムを会場に開催されました。会員、ご来賓合わせて約90名の方々にご出席いただきました。

総会では、事業報告や事業計画及び決算・予算が満場一致で可決されました。その席上で、令和5年度まで会長を務められ、役員としても長きにわたり首都圏増田会を支えてくださった細野前会長の功績に対し、横手市長から感謝状が贈呈されました。また、令和6年度の開催で「増田の花火」が第100回を迎えたことについて、増田町観光協会の千田会長よりお話をいただきました。

ビッグバンドYokote Heroes（ヨコテヒーローズ）の皆様による演奏で始まった交流会は、郷土の味の振舞い（料理：いもの子汁・ぼだっこのおにぎり・みずこぶの浅漬け・くるみ寒天など）が行われ、増田町観光協会のご協力による郷土菓子や漬物などの販売も行われました。どちらも参加者の皆様から大変好評でした。会の最後には参加者全員で「ふるさと」を合唱。会場に楽し気な歌声が響きました。

第40回総会・交流会では多くの会員の皆様と会場でお会いできることとあわせて、40回の節目を共にお祝いできることを楽しみにしております。



第39回

首都圏増田会

総会・交流会

お願いー連絡ー

事務局より

予算ならびに事務処理の都合上、増田会だよりの発行について、次のようにさせていただきます。

皆様のご理解の程をお願い申し上げます。

過去5年間、会費が未納の方

総会の案内及び増田会だよりの郵送を中止させていただきました。ただし、総会への参加は1人でも多くの方々の参加を期待しています。

令和6年度首都圏増田会収支報告

令和6年10月1日現在

首都圏増田会の令和6年度の収支決算がまとまりました。その内容は下記のとおりです。

【収入の部】		※「比較」欄は予算との比較	
項目	金額(円)	比較	備考
会費	220,000	▲ 30,000	2,000円/年(手数料差引後)
総会会費	376,000	▲ 184,000	47人
補助金	850,000	580,000	横手市より
繰越金	802,319	0	
預金利子	58	54	
諸収入	340,000	40,000	総会祝儀(268,000円) 公告収入ほか
収入合計	2,588,377	406,054	

【支出の部】			
項目	金額(円)	比較	備考
総会費	871,075	128,925	会場料、宴会費用ほか
会議費	111,261	88,739	役員会3回
渉外費	104,000	76,000	在京ふるさと会出席 横手市ふるさと会連絡協議会
慶弔費	0	20,000	
広告費	70,000	▲ 20,000	増田の花火協賛金
通信費	102,946	▲ 32,946	増田会だより印刷代
事業部活動費	0	30,000	
手数料	2,695	4,305	送金手数料ほか
事務費	0	15,000	
総会準備費	24,654	245,346	
予備費	8,000	332,323	名刺代4名
支出合計	1,294,631	887,692	

収支差引残金 1,293,746円は翌年度へ繰越

令和6年10月1日 首都圏増田会 会長 岩田 幸子

第40回首都圏増田会総会

■期日 11月16日(日)午前11時30分～

■場所 オーラム(令和6年と同じ場所です)

住所 東京都台東区東上野1-26-2

電話 03-5812-1123

総会会費 8,000円

募集しています

写真募集 首都圏増田会広報部より

「増田会だより」の表紙に載せる写真を募集しています。増田会にふさわしく、増田に関する郷土の風景、行事、心に残る写真をお持ちの方がおりましたら、ぜひ提供をお願いします。

■提供先:幹事長 越後 英雄

広告協賛募集 首都圏増田会総務部より

総会資料に掲載する広告を募集しています。1口(名刺版)3,000円となります。希望される方は、伝票の通信欄にその旨をご記入いただき、会費と一緒に納入してください。

会費の納入はお早めに

事務局より

当会の事業・運営は、会員の皆様の会費によって賄われていますが、ここ数年会費の納入が遅れたり、未納の会員の方がおります。健全会計維持のためにも、納入はお早めをお願いします。なお、5年間未納の方には次回より案内状・たより等の送付はしないこととします。また、転居された方をご存じの方は、横手市まちづくり推進部増田地域課へお知らせください。

■連絡先:〒019-0792 秋田県横手市増田町
増田字土肥館173番地
電話0182-45-5510(増田地域課)

◆会費 年額2,000円

◆納入期限 令和7年9月30日(火)

※振込伝票の通信欄は、会員紹介、増田会に対するご意見などを自由に記入してください。